



としょしつ
図書室で、お気に入りの「春」を見つけよう!
 き い はる み



「はるにあえたよ」

原京子 文 はたこうしろう 絵
 ポプラ社

ふたごのこぐまのかわいらしいかんちがいに、読んでいて心がほっこりとあたたかくなります。最初は白黒の世界ですが、ページをめくるたびに、どんどん色づいていきます。春の訪れを、ぜひ目で見て感じてください。



「はるがきた」

ジーン・ジオン文
 マーガレット・ブロイ・グレアム 絵
 こみやゆう 訳 主婦の友社

春がなかなかやってこない！それなら自分たちで作っちゃおう！ペンキを持ってみんなで町を明るい春の色にぬりかえます。ところがその夜、大雨が降ってきて・・・はたして春はやってくるのか？ドキドキしながら読んでみてくださいね。



「おばけの花見」

内田麟太郎 作 山本孝 絵
 岩崎書店

表紙をみただけで、なんだか楽しいことが起こりそうな予感がしてきませんか？そう、楽しいこと？？が起こるんです！あの人がいない！こんなおばけたちと一緒に・・・と自分も参加した気持ちになって読んでみても楽しいかもしれませんね。



「14ひきのぴくにっく」

いわらかずお作
 童心社

14ひきシリーズの春のお話です。おにぎりとお水筒を持ってみんなでピクニックへ！春の花やいきものたちもたくさん登場します。ぜひ、ゆったりと絵を楽しみながらお話を味わってください。読み終わったあと、きっと家族ででかけたくなりますよ。家族っていいな。うちどくにもおすすめですよ。



「ぼくがゆびをぱちんとならして、きみがおとなになるまえの詩集」

斉藤倫著 高野文子画 福音館書店

長〜い題名がとても印象的な1冊。(なかなかおぼえられません)詩集かな？いえいえ実は、詩集ではありません。詩ってなんだろう。ぜひ、この本を読んで、ことばの可能性について考えてみてください。難しいことは書いてありません。作中に登場するふたりのとりとめのない会話を楽しんでください。



「やまがみさまのきよだいべんとう」

大串ゆうじ 作
 偕成社

20年に一度、やまがみさまのために村の人が協力し、とっても大きなお弁当を作ります。運ぶのに14人必要なマンモス肉のステーキや、キリンの首にぴったりの長さのメガちくわが魅力的。でもこの本、読み聞かせするのに、勇気がいる本なんです。え？どうしてかって？それは読んでみたらわかります。